



# 自治体・産総研地質地盤情報連絡会 ニュースレター

No. 2

発行者: 産業技術総合研究所  
編集者: 地質調査情報センター 佐藤 努

## 1. ご挨拶

去る10月21日、千葉県環境研究センターにおいて第1回「自治体・産総研地質地盤情報連絡会」を開催し、新たな形で発足することができました。東京都、千葉県、神奈川県、横浜市、埼玉県、北海道から20名、産業技術総合研究所(産総研)から15名の参加を得て、活発な討論が行われました。

連絡会の情報誌としてメールを利用した会誌(メールマガジン)を発行しておりますので、このたび第2号をお届けいたします。本連絡会誌が自治体の皆さまと産総研の情報交換手段として、一層、有効利用されることを期待しています。

平成17年12月  
産業技術総合研究所  
産学官連携コーディネータ  
古宇田亮一

## 2. 第1回自治体・産総研地質地盤情報連絡会

地質調査情報センター 佐藤 努

2005年10月21日(金)に千葉県美浜区の千葉県環境研究センター会議室にて「自治体・産総研地質地盤情報連絡会」(第1回)が開催されました。この連絡会は、昨年度に3回実施された「地質・地盤情報の利活用に関する首都圏自治体と産総研の意見交換会」を引き継ぐもので、この会において両者の意見・情報交換の必要性が理解されたことを受けて今年度新たに発足したものです。第1回の会議の様子を、以下に報告します。

第1回の参加者は、自治体側から20名、産総研側から15名で、合計35名でした。

まず、会場をご提供いただいた千葉県環境研究センター次長の原雄氏から、ご挨拶をいただきました。続いて産総研・産学官連携コーディネータ・古宇田亮一氏から、当連絡会の趣旨説明がありました。



千葉県環境研究センター原氏による開会挨拶。

ひき続き話題提供となり、前半が産総研、後半が自治体で連絡会は進められました。

まずは、今回の話題提供の目玉の一つとして、地質情報研究部門・今井 登氏から日本の地球化学図についての講演がありました。地球化学図とは、いろいろな元素がどの程度の濃度で我々の回りの大地に分布しているかを示したものです。今回は、川の細粒砂の化学分析に基づいて作成された 10kmメッシュの日本全土の地球化学図(2005 年の環境賞優良賞受賞)を主に説明しました。

次に、地圏資源環境研究部門・丸井敦尚氏から地下水利用協議会の活動と地下水研究について、また、地質情報研究部門・木村克己氏から公開地盤情報データベースの動向と今後の課題について話題提供がありました。丸井氏からは、連携して地下水研究を行う際のアドバイスが、木村氏からは、地盤情報データベースの公開に関する動向とその問題点やそれに向けての産総研の取り組みなどが紹介されました。

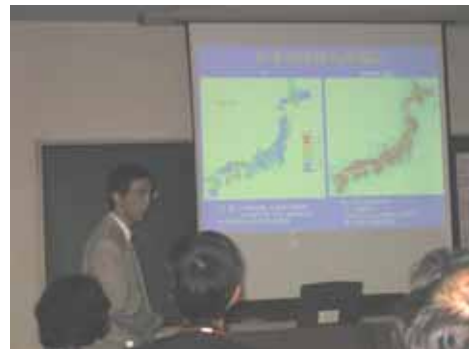
自治体からは、5 つの話題提供がありました。

まず北海道立地質研究所地域地質部・大津 直氏より、開発中の 2 つのデータベース(地下水温泉地盤ボーリングDBと北海道自然災害履歴DB)についての現状と課題について説明がありました。地下水や地熱井のデータは充実しているが、地盤ボーリングのデータ収集が遅れている点などについて、議論が交わされました。続いて、東京都土木技術研究所地象部・石村賢二氏より、地盤情報システムの現状と課題について話題提供がありました。地盤情報の著作権や所有権などについて、層相区分には著作権は発生しないが地層区分には発生するなど、参考になる説明がありました。また地盤情報の公開に関して、有料販売などの問題や、個人の傍系情報の取扱などについての紹介がありました。休憩前の最後には、埼玉県環境科学国際センター地質地盤・騒音グループ・八戸昭一氏から、水道用水源井戸に関する情報についての話題提供がありました。2004 年 6 月の国民保護法の交付に伴う情報管理体制の変化についての説明があり、各自治体に共通する問題であることから活発な議論が行われました。

休憩後は、まず、神奈川県温泉地学研究所研究部・宮下雄次氏より土壌・地下水汚染問題への対応と今後の課題について話題提供があり、3 次元的な地質データベースについて要望がなされました。続いて、千葉県環境研究センター水質地質部・佐藤賢司氏から千葉県地質環境インフォメーションバンクの紹介があり、同バンクの利用状況について、千葉県環境生活部水質保全課・香川 淳氏より説明がありました。2003 年度終わりからの集計によると、アクセス数は約 7 万件、ダウンロードは約 14 万件になるそうです。



会場の様子



地球化学図についての話題提供の様子。



地質環境インフォメーションバンク室の見学。

すべての話題提供の終了後、千葉県環境研究センターの見学を行いました。内容は、話題提供で紹介があった千葉県地質環境インフォメーションバンクと、地下水流動モデル実験や液状化実験についてです。どれも興味深い内容で、現場にて多くの質問や議論が交わされました。

見学終了後、再び会議室にて総合討論が行われました。地球化学図に関しては、土壤汚染調査への貢献などについての議論が、地下水研究における連携については、密に意見交換を行うことや主張することの重要性が議論されました。地質地盤情報についてはデータ公開と個人情報保護法との関係や、地震防災への応用について議論が行われました。

最後に、地質調査情報センター・下川浩一氏より次回の連絡会のお知らせがあり、同副センター長・村上 裕氏より閉会の挨拶が行われました。

連絡会の終了後には懇親会が開催され、27名の方が参加されて、さらに活発な議論で盛り上がりました。

次回、第2回の自治体・産総研地質地盤情報連絡会は、1月19日(木)に秋葉原ダイビルにおいて開催される予定です。(会場では1月20日(金)とアナウンスしましたが、変更になりました)。



地下水流動モデルの見学。

---

### 3. 第2号メールマガジン送付先(敬称略)

北海道立地質調査所, 茨城県企画部, 茨城県消防防災課, 埼玉県環境科学国際センター, 東京都土木技術研究所, 千葉県環境研究センター, 千葉県総務課, 神奈川県防災課, 神奈川県温泉地学研究所, 産業技術総合研究所関係者

(転送自由です。ご照会いただければお送りいたしますので、ご連絡先をお寄せください。)

---

### 4. イベント情報

陸上掘削サイエンス・プラン シンポジウム

「地球をのぞくファイバースコープ - 陸上科学掘削と社会」

日時: 2005年12月22日(木) 14:00 18:00

場所: 東京大学 小柴ホール

主催: 日本地球掘削科学コンソ - シアム(J DESC)

その他: 詳細はこちら <http://www.aesto.or.jp/j-desc/oshirase.html/program11.htm>

第35回岩盤力学に関するシンポジウム

日時: 2006年1月12~13日

場所: 土木会館(東京)

主催:土木学会(担当:岩盤力学委員会)

その他:詳細はこちら <http://www.jsce.or.jp/jurnal/kaikoku/m200505/gyouji/gyouji11.htm>

第3回国際デルタ会議(IGCP 475 第3回年会)

日時:1月13~18日

場所:ブルネイ・ダルサラーム大学

その他:詳細はこちら <http://www.unit.aist.go.jp/lgg/rg/cug-rg/ADP.html>

北淡活断層シンポジウム 2006年「淡路島と世界の地震・活断層」

日時:2006年1月14~15日

場所:小倉・北淡震災記念公園セミナーハウス

その他:詳細はこちら <http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssj/ssjinfo/sympo06.pdf>

第4回地質調査総合センターシンポジウム

日時/場所:2006年1月17日 13:30- / 神戸国際展示場会議室\*

テーマ「次の南海・東南海地震にどう備えるか」

\*震災対策技術展会場内

その他:詳細はこちら <http://www.gsj.jp/>

第10回震災対策技術展/自然災害対策技術展

場所/日時:神戸・神戸国際展示場 2006年1月17~18日

横浜・パシフィコ横浜 2006年2月2~3日

福岡国際センター 2006年3月22~23日

主催:(神戸会場・横浜会場)(財)神戸国際観光コンベンション協会/(財)神戸市防災安全公社,(福岡会場)第1回「震災対策技術展/自然災害対策技術展」福岡会場実行委員会/(財)福岡観光コンベンションビューロー/(財)福岡市防災協会/(財)福岡コンベンションセンター

その他:詳細はこちら <http://www.exhibitiontech.com/etec/>

第5回地質調査総合センターシンポジウム

「社会のための地球科学-日本とドイツの地球科学における交流-」

日時:2006年1月25日

場所:産総研つくばセンター共用講堂

その他:詳細はこちら <http://www.gsj.jp/Event/Deutschland/Deutschland.html>

地質標本館特別展示 日独共同企画

「日本の地質学の草創期と現在の地質学-ナウマン来日130周年-」

日時:2006年1月26日~3月26日

場所:産総研つくばセンター地質標本館

その他:詳細はこちら <http://www.gsj.jp/Event/Deutschland/Deutschland.html>

日本古生物学会第155回例会

日時:2006年2月2~5日

場所:京都・京都大学総合博物館

その他:詳細 <http://ammo.kueps.kyoto-u.ac.jp/palaeont/meeting-f.html>

地質標本館普及講演会「ドイツの地質学者ナウマンと日本の地質学の発展-そして今」

日時:2006年3月26日

場所:産総研つくばセンター地質標本館

その他:詳細はこちら <http://www.gsj.jp/Event/Deutschland/Deutschland.html>

---

## 5. 最近の地質・地盤関係出版物から

地質ニュース No.607(2005年3月号)

2004年新潟県中越地震の特集です。地形や地質と構造物被害との関係や、液状化現象について掲載しています。(実業広報社刊行,税込785円)

地質ニュース No.611(2005年7月号)

地中熱についての特集です。ヒートポンプによる地中熱利用について、地質や地下水流動の影響について掲載しています。(実業広報社刊行,税込785円)

構造図 14「全国主要活断層活動確率地図」

全国の主要活断層の過去の活動に関して、調査のデータを活動セグメントごとにとりまとめ、今後30年以内の活動確率を計算して色分け表示した縮尺200万分の1の地図です。(産業技術総合研究所刊行,税込2730円)

---

## あとがき

2005年の年の瀬も迫り、ようやく本連絡会のニュースレター第2号をお届けすることができました。昨年から今年にかけて、新潟県中越地震やスマトラ沖地震、パキスタン北部地震など、大きな被害地震が発生し、地震防災への一般の関心が非常に高くなりました。

このような情勢の中で、産総研も地質・地盤分野での啓蒙・普及活動に力を入れてきております。

さて、今回は、10月21日(金)に千葉県環境研究センターで開催された第1回「自治体・産総研地質地盤情報連絡会」の報告を中心に、イベント情報や出版物情報を掲載しました。

本連絡会の趣旨は、自治体で防災・環境対策や地質地盤情報の整備に取り組む関係者と産総研が、研究・技術情報等の情報交換を行い、連携して解決方策を探ることです。

皆様方には本メールマガジンの情報を活用していただくとともに、情報の提供やご意見・ご要望なども積極的に寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

(産総研・地質調査情報センター 下川浩一)

### 原稿・情報の送付先

〒305 8567  
茨城県つくば市東1-1-1中央第7  
独立行政法人産業技術総合研究所  
地質調査情報センター内  
自治体・産総研地質地盤情報連絡会事務局

電話 029 861 3549  
FAX 029 861 3672  
e-mail roy.kouda@aist.go.jp